
本日に乾杯を

桜華蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本日に乾杯を

【Zマーク】

Z6549C

【作者名】

桜華蒼

【あらすじ】

「藤の日（9／10）を祝おう！な企画。哀ちゃんと新一くん。「なんでも言いつ」とかへ「なんて、言われたらどうします？」

(前書き)

夜、寝る前に書いた、今日中に仕上げるのよー！ とこう感じです

「なんでも言ひついと聞いてあげる」
つひとつと、ヒパジヤマ姿でやつてくるなり灰原は口を開いた。
リビングで、眠れない退屈しのぎの雑誌から顔を上げて、呆然とする俺。

「は？」

「だから、言ひついときくわ」

「なんで？」

「今日はあなたの日だから」

「ああ、9月10日だからって。あと、5分で今日おわるんですけど。

「300秒もあるのよ、贅沢ね」

腕を組み見透かしたように薄く笑う。

「いきなり言われたって、思いつかねーよ」

すると、唇をへの字にして、眉を寄せて不機嫌を目一杯表現し始める。

「せっかく言つてるのよ？ 大好きって言ひとか、子猫たいに甘えてみせるとか、ほっぺにチューとか、頭をなでさせるとか、色々あるじゃない」

俺は灰原をじっと見る。

「全部」

「え？」

「いま言つたの全部。あと、その色々つてやつも」

彼女は、金魚みたいに口をパクパクさせた。上手く言葉がでないらしい。

「な、な……」

みるみる顔が赤くなる。

「言ひ出したのは灰原じゃん？ 時間もつたないから、まずチユ

「からな」

くつと腕を引くと、呆氣なく俺の腕の中に納まる。

「頭は俺が撫でてやつから」

うながすように、ふわふわの猫つ毛を手で梳ぐ。

「め、つむつて」

言われた通りにすると、頬に彼女の唇が微かに触れた。瞳を開けると俯きつぱなしの灰原。

「猫みたいに甘えてみてよ。どーすんの？」

手を伸ばしきゅっと俺を抱きしめ、そのまま動かない。

これとない程真っ赤になつている灰原を見たいのはヤマヤマだが、それは気が引ける。

「灰原、大好きって言つたらそれで終わりにしてもいいよ?」

そつと耳元で囁くと。

「本当?」とくぐもつた声が帰つてくる。

「ほんとう?」

「わ、わかつたわよ」

「うん?」

だ、と咳く震えた声。

「聞こえない」

「……すき」

「大はつかねえの?」

「……ダイスキ」

うわ、棒読みだ。

「ほんとか?」

思わず問い合わせ返すと。

「うん、大好き」

素直に返ってきた。

「あ」

それから口を閉ざしてしまつ。

沈黙。

それから、流れる静かな時間。

「このまま運んでやるよ」 そつまつて、抱き抱えたまま立ち上がる。

いわゆるナ供抱き。

眠いのか何の抵抗もない。

ふと、灰原はリビングの時計に目を遣った。

すこぶるヤバイ。

灰原が俺を抱きしめた時点での今日は終わっていたのだから。

「はいば

「サービスしてあげるわ

ほっとしたのも、つかの間。

「高くつくけどね

END。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6549c/>

本日に乾杯を

2010年12月9日05時06分発行